

PREX NOW



途上国と関西をつなぐ

VOL.265

特集:コロナに負けない

No seek, no find.

探さなければ見つからない



コロナを嘆いても、変えることはできません。
私たちができる唯一のことは、
私たち自身が変わること。

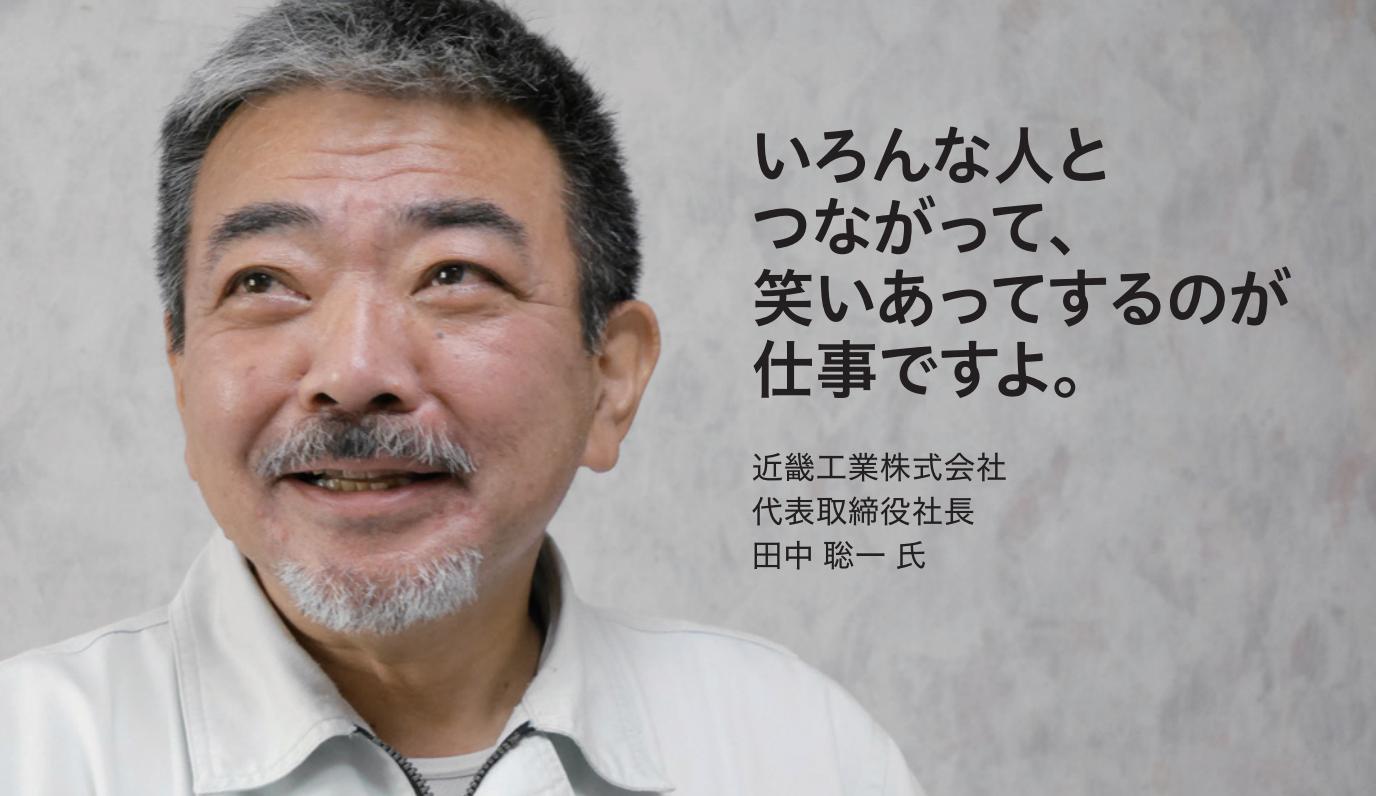
*外務省ジャパンSDGsプラットフォーム

このプラットフォームは、SDGsに関連した情報を社会に幅広く紹介することを目的に、企業、自治体、NGO/NPO、教育機関等の取り組みを掲載しています。

PREXも、その中で紹介されています。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>





いろんな人と
つながって、
笑いあってするのが
仕事ですよ。

近畿工業株式会社
代表取締役社長
田中 聰一 氏

JICA研修で各国の行政官にオンラインでお話ししました。

コロナの影響で、中小企業を取り巻く環境はいろいろ変化しています。しかし、変わっていく環境を嘆いても、何も変えることはできません。私たちにできる唯一のこととは、変わった環境下で、市場が何を求めてくるのか想像し、「私たち自身が変わること」です。そうしないと生き残ることはできない、と考えています。

例えば、「テレワーク」。コロナ後、満員電車で通勤する日々に戻るのか?と想像すると、おそらく3割の人はこのまま「テレワーク」を継続するでしょう。そうなった時に、わが社が鉄道関係の部品を作っているとすると、3割ぐらいは作れなくなります。自転車やバギーが鉄道に代わるのか、その時、私たちが何に役立てるのか、それを考えて技術を高めていく必要があります。このように、社会全体の方向性を想像して、会社のなかのカイゼンの目的をそちらにむけていくとか、さまざまな対応を考えしていくことが、人間に求められています。

のために、「5つの人間力」を高められるように、近畿工業は人づくりを行ってきました。スタートして14年が経ちますが、社員の成長を実感することが増えました。

「5つの人間力」とは

①変わっていく環境に対して、まず好奇心を持つこと ②すぐに行動ができる ③やりだしたら結果が出るまで必ずやる
④可能性思考で笑顔 ⑤自分の考えを人に伝え、相手が考えていることを理解する会話力です。(5つの中で⑤が最も大切)
20人の職場ですから、これを浸透させるのに難しく考えることはありません。私は、社員の仕事の仕方やものの扱い方をそばで見ていて、社員が「何のために、誰のために、何をしたいのか」ということを考えるように質問攻めにしているだけです。経営理念も同じ方法で浸透させました。(次のページに続く↗)

★研修員からこんな質問がありました！

「バーチャル工場見学で御社の様子がよくわかりました。規模は大きくないですが、新しい設備が整っていると思いました。20人の社員のうち、4人の女性が働いているということですが、男女差別をなくしていこうという考え方からですか？」

一つのことをいろんな角度から見ましょう、とよく言います。工場でも、男性ばかりだと一つの方向からしか物事が見えていないのだろうと考えました。「女性が一緒に働いてくれるような金属加工業」にしたいという思いもあります。今は中国やベトナムの方も一緒に働いてくれています。

「OSAKA町工場EXPO2020」で
近畿工業のバーチャル工場見学ができます。

OSAKA
町工場
EXPO2020
世界初、全国バーチャルツアー開催会
Present by HappyPlane





近畿工業は、ものづくり大好き集団。

近畿工業株式会社の社員の皆さん

好奇心旺盛で頼もしい、ものづくりのスタッフたち。

研修員の皆さんは、自国の経済を発展させるのに、まず工業団地を作り、海外の大きな企業を誘致し、雇用を作ってもらい、税金を払ってもらって、というようなことを考えているかもしれません。しかし、これでは、いつまでたっても下請けから逃れられないという状況になります。

私たちは「コロナ」を経験して、大切なことに気づかせてもらったと感じています。それは、「経済」は企業のためにあるのではないということです。人が動くから必要なものが生まれる、それを手助けするために産業が生まれる。人が動かなければ経済は動きません。どんな時も、企業は、「人が何を求めているのか」、そこを考えていく必要があります。

もう一つは、「一人では何もできない」ということです。それは国も同じです。世界中がつながって、新しい未来を作っていくことができると思います。

社員の「5つの人間力」が、ますます大切になります。

研修員の方から、「近畿工業は小さいけど、いい機械を持っているですね」とコメントがありました。

ですが、「機械がなかったら金属加工業はできないのか?」と言うとそうではありません。

これからは、「誰のために、何を作りたいのか、どうしたいのか、というアイデア」こそが最も大事です。

近畿工業は、規模の拡大や海外に自社工場を持つことを一番には考えていません。ネットワークがあれば、つながって何でもできる時代になってきていますから。

研修員の方には、「例えば、政府が最新の機械を購入してくれました。しかし使える人がいない。そういう状況なら、近畿工業に相談してください」と伝えました。インターネットが使えるなら、私が研修員の皆さんの国のお機械を動かすこともできます。今はもうそんな時代になっています。世界の方とつながって新しい産業を興していくようになれたらいいと思っています。

*田中社長に講師を務めていただいた研修はこちら↓

2021年度 JICA中小企業振興政策(遠隔研修)

各国の中小企業振興に携わる中央省庁、地方自治体の行政職員、

商工会議所等の公的支援機関等の職員が参加。

2021年6月21日～7月16日

【13名】エチオピア、ガンビア、ガーナ、ラオス、モンゴル、
ネパール、ナイジェリア、パレスチナ、スーダン、ウクライナ





コロナで考え出された
「オンラインツアー」には、
旅行の未来を変える
可能性があります。

阪南大学 国際観光学部
教授 清水 苗穂子 氏

研修のコースリーダーの清水です。

2021年7月に終了した「JICA持続可能な観光地域づくりの人材育成」。コロナの影響で、観光・旅行業界はどの国も大打撃を受けていますが、参加している研修員の皆さんも、それぞれの国で工夫された独自の取組みをされていました。観光では現地に行くことがまず重要だと考えます。あまり難しいことを考えず、とにかく行ってみる。すると、そこには、海外に出てみて初めて気づかされることがあります。

観光は、「平和へのパスポート」と呼ばれています。あまり良く知らない国でも行ってみると、人はその国に親近感を持つようになります。民間人が観光により、外交しているのです。世界中で観光がストップすると、世界の人はお互いに理解しにくくなるのではないか。こうした機会が失われているのは残念なことです。

コロナだからこそ、クリエイティブなことが生まれています。

日本の旅行会社は、倒産件数は増えていますが、各社、負債が増えています。店舗の閉鎖、さらに従業員の定年を早めたり、新入社員を採用しないといった動きがあります。そんな中、オンラインのツアーが生まれています。これは、コロナ禍で生み出された新しい商品で、現地人材の雇用も継続できます。ツアー参加者は、通常では条件が合わないとなかなか選択できないディスティネーションでも、オンラインツアーなら気軽に参加できます。また通常は観光客が入場できない場所に現地ガイドが行き、その魅力を紹介するツアーもあります。旅行会社にとって、リアルのツアーよりも参加者数に制限がなく、利益を得やすいツアーもあります。つまり、「地域」にとっても、「お客様」にとっても、「旅行会社」にとってもコロナ禍において「画期的な商品」になっています。

また、「オンラインツアー」なら、ハンディキャップがあり現地に行くのが難しい方なども参加できる、また現地の人と双方で質問したり会話ができるインタラクティブ性があるなど、これまでの旅行のあり方を変えていく可能性もあります。誰もが参加でき、現地の人々とのコミュニケーションが可能になる、観光における「社会貢献」的な新しい価値を生む動きです。おかげさかもしだせんが、人間は危機に直面してもそれを乗り越えて新しいものを作りだせるのだと実感しています。大学の学生には、「コロナに負けずに、企業がどういう努力をしているのか、自分で見たり調べたりして意見を持つようにしてください」と言っています。オンラインツアーが評価される中、競争は激しくなり、似通った商品も出てきています。企業はたゆまぬ努力が求められています。そうした状況も含め、学生にはしっかり現状を見てほしいと思っています。

*清水先生にコースリーダーを務めていただいた研修はこちら↓

2021年度 JICA持続可能な観光地域づくりの人材育成(遠隔研修)

観光地域づくりを通じて持続可能な観光振興を推進する関連省庁、地方自治体またはその外郭団体に所属し「観光地域づくりを行う人材育成」の計画を作成、実施を担当する職員が参加。

2021年5月31日～7月2日【7か国、9名】モンゴル(3) ブータン(1) パキスタン(1)
キリバス(1) エチオピア(1) アルメニア(1) アゼルバイジャン(1)



学生が学ぶのは
ロジカルシンキング。

清水ゼミをあらわすSの指サイン

清水ゼミは、企業、公官庁と共同研究をメインにしています。

「観光」と言えば、「地域観光」を取り上げる先生が多いのですが、いろんなゼミがあったほうがよいと思い、自分が企業出身(近畿日本ツーリスト)なので、企業が抱えている問題を企業と協力しながら解決していくことをゼミのテーマにしようと思いました。学生と接することは、ほんとうに面白い。自分に自信が持てない学生もけっこういますが、なんとか自信をもってもらいたい、いろんなことを体験することで自分の良さ、能力に気づいてもらいたい。そんな思いでゼミ活動を行い、また学生の良いところをどんどんほめるようにしています。

これまで、株式会社Peach Aviation、株式会社エイチ・アイ・エス、タイ国政府観光庁と共同研究を行ってきました。コロナウイルスのために企業の方と直接ミーティングをすることができず、また毎年行っているタイ・バンコクへのスタディツアーも中止となり現地調査ができず、研究を進めることができなくなり難しくもありました。そのような中で、各チームはオンラインを活用し、以下のようなテーマで学生ならではの研究結果をまとめてくれました。

エイチ・アイ・エスチーム:「H.I.S.今後の旅行会社としての施策 ~Withコロナ時代を生き抜くために~」

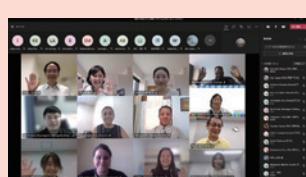
タイ国政府観光庁チーム:「新型コロナウイルス後のタイ旅行の需要調査と新規地方ツアーの提案」

Peach Aviationチーム:「Peach Aviationの機内デジタルサービスに伴った新サービスの提案」



詳細はこちらをご覧ください。→

大切にしているのは、企業や団体との対話の中で課題を発見し、その要因を分析し、解決策を提案する活動を通して、学生の社会人基礎力を育成することです。研究テーマは、学生が自由に決めています。ただし、「思いつき」で回答を出すのではなく「ロジカルシンキング」を課しています。例えば、お客様にお金を落としてもらうための案を考えるとしたら、思いつきで「これを売ったらしいのでは?」ということではありません。どうしてこの商品がいいのか、ターゲットは?と仮説を立て、市場調査をしそれらを分析する。この論理的思考を身につけることが非常に重要で、社会でも必要になるので、習得してもらえるよう努めています。



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう

私が紹介したい国。

今回は、松本職員がラトビアを紹介します。



皆さん、 ラトビアって聞いたことはありますか？



Labdien ! (こんにちは) 国際交流部の松本です。

私は1年間ラトビアの大学院に所属し、バルト文化圏の民間信仰に関する研究を行っていました。

ラトビアは北欧諸国の南、そしてロシアの西に位置し、北からエストニア、ラトビア、リトアニア(バルト三国)と並んでいます。真ん中の国「ラトビア」が、今回私が紹介する国です。

ラトビアは、人口200万人前後で、面積は日本の6分の1ほど。首都リガは人口70万人前後とバルト三国内で高い経済規模を誇り、新市街を歩くと、交通網や娯楽施設も充実しています。特に斬新なデザインの国立図書館はスタイリッシュで落ち着きがあり、思い出の場所の一つです。

一方で、旧市街は、世界文化遺産にも登録され、歩くと中世にタイムスリップしたかのような光景が広がります。クリスマスシーズンにはマーケットを楽しむ人々でにぎわいます。諸説ありますがラトビアはクリスマツリー発祥の国で、最初にクリスマツリーの装飾をした国と言われています。

旧市街の冬の景色も幻想的ですが、私のリガでの一番の思い出は季節の祭りと歌と踊りです。ラトビアでは、春夏秋冬、季節ごとの祭りが催されます。一番の盛り上がりはラトビアの国定休日である、夏至祭です。夏至祭では草や花で冠をつくったり、焚き火をたいてその周りで歌ったり、踊ったり、焚火を飛び越えたり、ビールやチーズを楽しみながら、短い夜が明けるまで過ごします。私はラトビアで多くの祭りに参加しましたが、ラトビアの文様を施した民俗衣装を身に着けたフォークソングのグループが、民俗楽器を演奏しながら、民謡を披露していました。ラトビア語を話せない時もあった私でしたが、ラトビア人は親切に接してくれて、一緒に踊りや、ゲームを楽しんだのは一生忘れない思い出です。

歌と踊りを愛する国「ラトビア」。機会があれば是非、足を運んでみてください。

Paldies par lasīšanu.(お読みいただきありがとうございます)(国際交流部 松本)



* PREXウェブサイト「世界は人で、できている」では、
PREX職員が、さまざまな国の人情報を紹介しています。





PREX流 働きやすい 職場づくり

誰もがいきいきと働ける職場環境のための 取り組み推進中！

皆さん、こんにちは。総務部の池田です。

PREX職員は現在23名。関西の企業からの出向者や大学で国際協力などの勉強をした職員、財団の設立当初から勤務するベテラン職員から新入職員と幅広い年齢層のメンバーが働いています。

PREXのビジョンは、「人材育成を通して、イノベーションを喚起し、異なる価値観を持った人々が互いに認め合い、共に支え合える社会の実現に貢献します」です。総務部では、組織の中でもビジョンを実現できるように、職員それぞれの状況にあった働きやすい環境をつくること、職員一人ひとりが働きがいを感じる職場づくりをすることをめざして、職員が働き続けられるための制度作りや組織風土づくり、職員が活躍するしくみづくりを具体的に進めています。今、ひとつひとつ進んでいると感じています。

例えば、私自身は、2018年に派遣職員から正職員になりました。今の働き続けられる雇用形態に感謝していますし、正職員になり多様な仕事に携わるようになり派遣職員時より業務の幅が広がりました。

従来の経理業務に加え、職員の安全や心身の健康維持のために「安全衛生委員会」を新設し、「安全衛生推進者」として組織や職員のために業務を行う機会も増えています。また、治療と仕事の両立支援についてセミナーを受講し「両立支援コーディネーター」として業務を行っています。正職員になったことで組織の中での自分の役割がより明確になり、自分の仕事が誰かの役に立ち喜んでもらえるといったところにやりがいを感じて仕事に取り組めています。

PREXが、職員が働き続けられる制度作りをしようとしていることは、大切なことで、形だけの制度や委員会ではなく、きちんと職員の一人ひとりのことを考えたしくみを作り、それが実際に職員の声を拾えるように機能している、ということが、働いている人にとっての「安心感」につながっています。

これからウェブサイトなどを通して、PREXの働きやすい職場づくりの事例を読者の皆さんと共有したいと考えています。皆さんからも、職場をより良くする取り組みをどんなふうに進めているのか、教えてもらえると嬉しいです。

【PREXの働きやすい職場づくりの例】

2018年 心の健康づくり計画策定

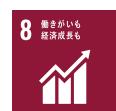
(メンタルヘルスケア推進、安全衛生委員会設置)

ウェブサイト「PREX総務コラム」はこちら→

2019年 フレックスタイム制度を導入

2020年 在宅勤務が可能な出退勤管理や精算の流れづくり(コロナ対応)

2021年 テレワーク勤務規程を導入 など



NEWS &TOPICS

オリンピックやパラリンピックではアスリートたちが頑張っていましたね。PREXも、コロナに負けず、遠隔で感動体験や学びの場を提供できるよう研修を実施しています。今月号では、ライブ講義をはじめとして、貴重な講義と豊富な教材を提供いただいている訪問先企業と講師の声をご紹介しました。みんなの頑張っている姿が勇気に変わることを願っています。
PREXへのお問い合わせやご意見、「PREX NOW」への意見・感想をお待ちしています。
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

コロナ禍でも、オンデマンドやライブ配信による遠隔研修を実施しています！

最新の研修レポートはPREXのウェブサイトで紹介しています。



～2021年度 JICA投資促進のためのキャパシティ・デイベロップメント(A)～

★日程 2021年6月21日～2021年7月9日

★参加者 海外投資促進に携わる行政官 11名

★参加国 アルジェリア、アンゴラ、アルゼンチン、エクアドル、ナミビア、ナイジェリア、セネガル、ウルグアイ

世界の食卓 ラトビア・リトアニア編

ラトビアの隣、リトアニアの伝統料理「キビナイ」。お肉(羊肉、あるいは豚肉、鶏肉)をパイで包み焼いたものです。リトアニアやラトビアのスーパー・パン屋でも売られています。日本にも「キビナイ」を食べられる北欧料理レストランがあります。機会があればご賞味あれ。(松本)



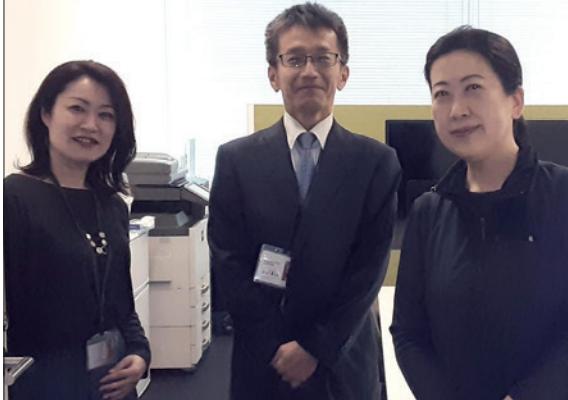
上本町SDGs大学、続々開催しています！詳細はこちらから→



あなたは
どんな災害を
知っていますか？



第8回は、6/27「SDGs×防災」をテーマに
出水真由美さんに登壇いただきました。
(防災士 ママコミュ！ドットコム代表)



JICAコラボデスク ご活用ください！

JICA関西企業連携課の企業相談窓口「JICAコラボデスク」。JICA中小企業・SDGs支援制度の紹介や海外展開に役立つセミナーを開催しています。

グランフロント大阪北館7階K709にて、PREX職員が、「JICA中小企業海外展開支援アドバイザー」として運営を担当しています。どうぞお気軽にご連絡ください。

JICAコラボデスク担当 酒井・中山・尾崎

電話:06-6136-3477

e-mail: jica-collabodesk@prex-hrd.or.jp

*PREXは、関西企業のグローバル化支援事業の一環としてJICA関西から2019年度より3年間JICAコラボデスクの運営を受託・実施しています。

Twitter、発信中 フォローをお待ちしています！



PREX（公益財団法人太平洋人材交流センター）
22件のツイート

... フォロー中

PREX NOW第265号(2021年10月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事:岡本 譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ:<http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー